

目 次

建設機械の発展のために 松野 武 1

協会の事業活動について 2

本協会の各部会, 専門部会の動き 4

普及部会 4

技術部会 4

施工部会 11

整備部会 12

調査部会 12

水力開発機械化専門部会 12

道路工事機械化専門部会 13

土と基礎機械化専門部会 18

指導書専門部会 21

海外用建設機械要覧編集委員会 22

日本建設機械要覧編集委員会 22

建設機械損料調査委員会 22

技術相談部 22

製造業部会 22

建設業部会 22

商社部会 23

サービス業部会 23

昭和 36 年度各省事業の概要

I 昭和 36 年度建設省事業の概要 寺 崎 満 24

II 昭和 36 年度運輸省港湾事業の概要 竹 内 良 夫 31

III 昭和 36 年度首都高速道路公団の事業概要 大 塚 全 35

アスファルト舗装の応用

I 干拓事業のアスファルトライニング 久 松 実 40

II アスファルト道床について 山 本 陽 43

III 生アスファルトコンクリート供給 齋 藤 実 46

設備について

大野ダム骨材の実績および製砂について(その2) 山 岡 一 三 50

田子倉ダムのグラウト工事にいつて(その2) 吉 田 勝 英 57

佐藤新太郎

ヨーロッパの建設機械などについて(その1) 玉 井 正 彰 65

掘削機構の解明 (I) (その1) 畠 昭 治 郎 71

ニューズ (編集部) 75

国産建設機械主要諸元表(その3, 4) 田 中 康 之 76

後 藤 浩 平

行事一覧・編集後記 (小林・長尾) 80

本協会団体会員一覧

◇表紙写真説明◇

三菱日本重工業株式会社製

三菱 MS-10 型 モータースクレーパー

三菱日本重工業(株)は昭和32年に最初の国産機としてMS-I型を試作したが、本機は同社がこれらの経験をもとに更に最新の技術を取り入れて製作した2輪トラクタ式のMS-10型モータースクレーパーである。強力な245馬力過給機付ディーゼルエンジン、操作が極めて簡単なパワシフト式変速機、油圧式追従機構付の軽い操向ハンドル、高い走行速度、小さい回転半径など、建設作業の能率向上を援ける多くの特長を具えている。

主要諸元

容 量	山 積	11 m ³	最 高 速 度	40.7 km/h
	平 積	9 m ³	最 小 U 字 回 転 幅	(トルクコンバータ回転比1) 10m
車 両 重 量		22,000 kg	スクレーパー切削幅	2,560mm
エ ン ジ ン 出 力		245 ps/1,800rpm.	タイヤ(前, 後輪共)	26-5-25